

子どもの生活に関する実態調査の結果（確報）について

1 調査及び結果報告の趣旨

子どもの貧困対策における効果的な支援の在り方を検討するため、平成29年7月に実施した実態調査について平成30年2月に速報を行政報告しましたが、最終結果がまとまりましたので、その主な調査項目及び抽出した課題について報告するものです。

2 調査概要

(1) 目的

- ・ 貧困の状況にある子どもや家庭の実態及び支援ニーズの把握
- ・ 地方公共団体が実施している施策の認知度、利用度、利用意向の把握
- ・ 家庭の経済状況等と子どもの学力との関係性の把握

(2) 調査対象、回収状況、調査方法等

区 分		小学校5年生の家庭	中学校2年生の家庭
調査対象者数	子ども	1,678人	1,697人
	保護者	1,678人	1,697人
有効回答数 (回答率)	子ども	1,415 (84.3%)	1,398 (82.4%)
	保護者	1,483 (88.4%)	1,393 (82.1%)
調査対象者		呉市立の学校に通う小学校5年生とその保護者及び中学校2年生とその保護者	
調査方法		無記名、密封調査、学校を通じて配布し、回収	
調査時期		平成29年7月	

(3) 調査項目

- ・ 広島県共通調査項目
 - 【子ども向け：41問】 食事、子ども部屋の有無、学力の状況、学校以外での学習の状況、塾・習い事、将来の夢 等
 - 【保護者向け：48問】 世帯構成、住居、就労状況、収入、子どもに掛ける費用、子どもとのかかわり、支援制度の利用状況 等
- ・ 呉市が独自に加えた調査項目
 - 【子ども向け：1問】 夢や就きたい職業に就くことを実現するためにはどのようなことが必要だと思うか
 - 【保護者向け：1問】 市が子どもの居場所づくり等の施策を実施した場合の利用意向

【本調査における「生活状態」の取扱い及び「生活困難層」等の定義について】

本調査では、子どもの貧困状態を世帯の所得額だけでなく家庭環境全体で把握すべきであると考え、生活困窮の状況を次の三つの要素に基づいて表のように分類しています。

① 低所得

等価世帯所得（※1）が、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準（※2）未満の世帯（※3）

※1 世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※2 厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」（所得は平成27年値）の世帯所得の中央値（428万円）を、平均世帯人数（2.47人）の平方根で割った値の50%である136.2万円

※3 低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」で公表されている「子供の貧困率」（13.9%）と比較できるものではありません。

② 家計のひっ迫

経済的な理由で、公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など7項目※のうち、一つ以上に該当

※ 電話料金、電気料金、ガス料金、水道料金、家賃、家族が必要とする食料が買えなかった、家族が必要とする衣類が買えなかった

③ 子どもの体験や所有物の欠如

子どもの体験や所有物など15項目※のうち、経済的な理由で欠如している項目に三つ以上該当

※ 海水浴に行く、博物館・科学館・美術館などに行く、キャンプやバーベキューに行く、スポーツ観戦や劇場に行く、遊園地やテーマパークに行く、毎月お小遣いを渡す、毎年新しい洋服・靴を買う、習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる、学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう）、お誕生日のお祝いをする、1年に1回くらい家族旅行に行く、クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる、子どもの年齢に合った本、子ども用のスポーツ用品・おもちゃを買う、子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所がある

	生活困窮層	二つ以上の要素に該当
	周辺層	いずれか一つの要素に該当
	生活困難層	生活困窮層 + 周辺層
	非生活困難層	いずれの要素にも該当しない

3 主な調査結果

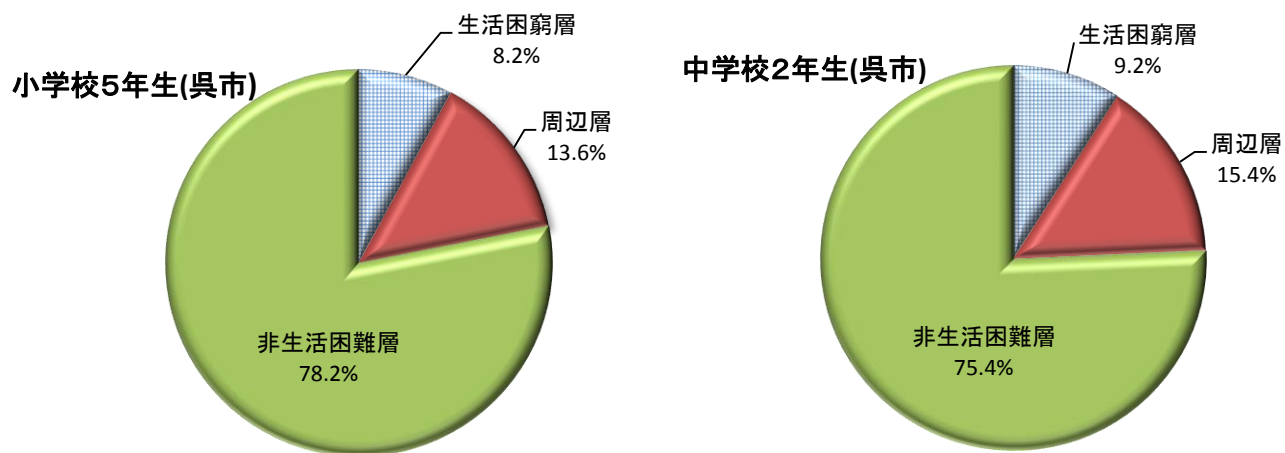
(1) 生活困窮の状況

生活困窮層にあると思われる家庭は、小学校5年生の家庭では8.2%、中学校2年生の家庭では9.2%、周辺層まで含めた生活困難層にある家庭は、小学校5年生の家庭では21.8%、中学校2年生の家庭では24.6%であった。

世帯構成別では、小学校5年生のひとり親家庭の31.7%が生活困窮層、中学校2年生のひとり親家庭の34.9%が生活困窮層であった。

区 分		小学校5年生の家庭		中学校2年生の家庭	
		呉市	(参考) 広島県	呉市	(参考) 広島県
生活困窮層	生活困窮層	8.2%	9.3%	9.2%	9.6%
	周辺層	13.6%	16.4% ※	15.4%	18.2%
生活困難層		21.8%	25.7% ※	24.6%	27.8%
非生活困難層		78.2%	74.3% ※	75.4%	72.2%

(※の数値については前回(平成30年2月6日行政報告)の速報値から確定値に修正)



(世帯構成別の生活困難層の内訳)

区 分			ふたり親の家庭		ひとり親の家庭	
			呉市	(参考) 広島県	呉市	(参考) 広島県
生活困難層	生活困窮層	小学校5年生	5.4%	6.8%	31.7%	29.8% ※
		中学校2年生	5.5%	6.7%	34.9%	28.9% ※
	周辺層	小学校5年生	11.7%	14.7%	28.3%	30.0% ※
		中学校2年生	13.6%	16.4% ※	27.9%	31.0% ※
非生活困難層		小学校5年生	82.8%	78.4% ※	40.0%	40.3% ※
		中学校2年生	80.9%	76.8% ※	37.2%	40.1% ※

(※の数値については前回(平成30年2月6日行政報告)の速報値から確定値に修正)

注) 端数処理の関係で、合計が100.0%とならない場合がある。

(2) 子どもの学び

① 「保護者の家計状況」と「子どもの成績の主観的な評価」のクロス集計結果

回答区分		学年	<子ども> 問30 自分の成績がクラスの中でどのくらいだと思うか	
			上の方 やや上の方 真ん中のあたり	やや下の方 下の方
<保護者> 問30 家計状況	赤字であり、借金をして生活している	小5	55.3%	23.7%
	赤字であり、貯蓄を取り崩している		54.5%	34.5%
	赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである		66.2%	23.2%
	黒字ではあるが、貯蓄はしていない		68.5%	24.9%
	黒字であり、毎月貯蓄をしている		78.9%	13.9%
	赤字であり、借金をして生活している	中2	41.6%	47.2%
	赤字であり、貯蓄を取り崩している		53.9%	36.3%
	赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである		53.3%	38.2%
	黒字ではあるが、貯蓄はしていない		55.7%	39.6%
	黒字であり、毎月貯蓄をしている		67.2%	24.9%

(2)① まとめ

「赤字であり、借金をして生活をしている」家庭の子どもは、「黒字であり、毎月貯蓄をしている」家庭の子どもより、成績の主観的な評価が低い。

◆ 家計の状況が、子どもの成績の主観的な評価に影響している。

② 「保護者の関わり」と「子どもの成績の主観的な評価」のクロス集計結果

回答区分		学年	<子ども> 問30 クラスの中での成績評価	
			上の方 やや上の方 真ん中のあたり	やや下の方 下の方
<保護者> 問28 子どもへの接し方／計画的に勉強するよう促しているか	あてはまる	小5	71.5%	17.9%
	どちらかと言えばあてはまる		69.1%	21.3%
	どちらかと言えばあてはまらない		65.0%	26.4%
	あてはまらない		55.4%	32.5%
	あてはまる	中2	62.8%	30.6%
	どちらかと言えばあてはまる		54.7%	36.0%
	どちらかと言えばあてはまらない		49.5%	40.4%
	あてはまらない		55.6%	38.3%

③ 「保護者の関わり」と生活困難度

回答区分		学年	生活困難層		非生活困難層
			生活困窮層	周辺層	
<保護者> 問28 子どもへの接し方／計画的に勉強するよう促しているか	あてはまる	小5	28.9%	25.0%	40.0%
	どちらかと言えばあてはまる		35.6%	44.6%	41.3%
	どちらかと言えばあてはまらない		18.9%	20.9%	15.4%
	あてはまらない		14.4%	7.4%	3.4%
	あてはまる	中2	27.6%	32.1%	34.7%
	どちらかと言えばあてはまる		32.7%	39.4%	46.2%
	どちらかと言えばあてはまらない		26.5%	20.0%	13.6%
	あてはまらない		12.2%	8.5%	4.8%

(2)②③ まとめ

- ・ 保護者が、子どもに計画的な勉強を促すなど積極的に関わる家庭の子どもの方が成績の主観的な評価が高い。
- ・ 保護者が、子どもの勉強にあまり関わっていない家庭の割合は、生活が困難になるほど増えている。
- ◆ 生活が困難になるほど保護者が関わらず、子どもの成績の主観的な評価に影響を与えている。

④ 「計画を立てて勉強すること」と「子どもの成績の主観的な評価」のクロス集計結果

回答区分		学年	<子ども> 問30 クラスの中での成績評価	
			上の方 やや上の方 真ん中のあたり	やや下の方 下の方
<子ども> 問35 自分で計画を立てて勉強しているか	している	小5	83.1%	10.5%
	どちらかと言えばしている		72.4%	19.9%
	あまりしていない		63.0%	25.2%
	まったくしていない		40.5%	45.0%
	している	中2	75.7%	14.9%
	どちらかと言えばしている		65.3%	27.7%
	あまりしていない		51.4%	40.0%
	まったくしていない		36.5%	53.7%

⑤ 「計画を立てて勉強すること」と生活困難度

回答区分		学年	生活困難層		非生活困難層
			生活困窮層	周辺層	
<子ども> 問35 自分で計画を立てて勉強しているか	している	小5	14.8%	16.7%	21.0%
	どちらかと言えばしている		25.9%	31.9%	38.8%
	あまりしていない		43.2%	36.1%	31.9%
	まったくしていない		14.8%	14.6%	7.2%
	している	中2	11.5%	10.9%	11.9%
	どちらかと言えばしている		20.8%	28.8%	31.5%
	あまりしていない		46.9%	38.5%	43.5%
	まったくしていない		19.8%	19.9%	12.7%

(2)④⑤ まとめ

- ・ 計画的に勉強に取り組む子どもほど、成績の主観的な評価が高い。
- ・ 計画的に勉強に取り組まない子どもの割合は、生活が困難になるほど増えている。

(2) 子どもの学びに関する課題

生活困難な家庭や保護者の関わりが少ない家庭の子どもの学習環境の改善
学校や家庭において主体的な学びを促す教育活動の充実

(3) 子どもの生活

① 「平日の放課後一人でいる子ども」と「子どもの居場所利用意向」のクロス集計結果

回答区分	学年	＜子ども＞問4-1 使ってみたいと思う場所			
			使ってみたい	使いたくない	使う必要はない
＜子ども＞ 問9 平日の放課後に誰と過ごすことが一番多いか／一人であることが多い	小5	平日の放課後夜までいることができる場所	41.2%	17.5%	39.5%
		家以外で休日にいることができる場所	57.9%	10.5%	28.1%
		家の人がいないときに夕食をみんなで食べられる場所	42.1%	17.5%	36.0%
		家で勉強できないときに静かに勉強ができる場所	56.1%	15.8%	27.2%
		大学のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所	43.9%	20.2%	34.2%
		学校以外で何でも相談できる場所	43.9%	18.4%	36.0%
	中2	平日の放課後夜までいることができる場所	46.9%	11.5%	39.6%
		家以外で休日にいることができる場所	50.0%	14.6%	33.3%
		家の人がいないときに夕食をみんなで食べられる場所	32.3%	18.8%	46.9%
		家で勉強できないときに静かに勉強ができる場所	57.3%	13.5%	27.1%
		大学のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所	35.4%	24.0%	38.5%
		学校以外で何でも相談できる場所	40.6%	19.8%	37.5%

② 「平日の放課後一人でいる子ども」の生活困難度

回答区分	学年	生活困難層		非生活困難層
		生活困窮層	周辺層	
＜子ども＞ 問9 平日の放課後に誰と過ごすことが一番多いか／一人であることが多い	小5	13.6%	9.7%	8.0%
	中2	10.4%	7.7%	7.2%

③ 「平日の夕食を一人で食べる子ども」の生活困難度

回答区分	学年	生活困難層		非生活困難層
		生活困窮層	周辺層	
＜子ども＞ 問2-3 平日に夕食を誰と食べるか／一人で食べる	小5	4.9%	4.9%	3.5%
	中2	8.3%	10.9%	10.3%

(3)①～③ まとめ

- ・ 平日の放課後を一人で過ごしている子どもは「家以外で休日にいることができる場所」「家で勉強できないときに静かに勉強ができる場所」に対する利用意向が高い。
- ・ 生活の困難さで分類した「平日の放課後を一人で過ごしている子ども」の割合は、生活が困難になるほど増えているが、「平日の夕食を一人で食べる子ども」の割合については、大きな差がない。

④ 「平日に朝食をとる頻度」と「子どもの成績の主観的な評価」のクロス集計結果

回答区分		学年	<子ども> 問30 クラスの中での成績評価	
			上の方 やや上の方 真ん中のあたり	やや下の方 下の方
<子ども> 問21 平日に朝食をとる頻度	いつも食べる（週に5日）	小5	69.2%	20.7%
	食べる方が多い（週に3, 4日）		55.6%	36.5%
	食べない方が多い（週に1, 2日）		50.1%	35.7%
	いつも食べない		41.6%	41.7%
	いつも食べる（週に5日）	中2	58.9%	33.3%
	食べる方が多い（週に3, 4日）		37.5%	49.0%
	食べない方が多い（週に1, 2日）		38.0%	48.0%
	いつも食べない		26.4%	73.7%

(3)④ まとめ

朝食をいつも食べる子どもほど成績の主観的な評価が高い。

(3) 子どもの生活に関する課題

一人で過ごす子どもの居場所の在り方
子どもの基本的な生活習慣の定着に向けた取組

(4) 子どもの健康

①-1

回答区分	学年	生活困難層		非生活困難層
		生活困窮層	周辺層	
<保護者> 問16 過去1年間に子どもを医療機関で受診させた方が良いと考えながら受診させなかった経験/あり	小5	36.7%	24.3%	11.8%
	中2	28.6%	23.6%	14.4%

①-2

回答区分	学年	生活困難層		非生活困難層	
		生活困窮層	周辺層		
<保護者> 問16-1 受診させなかった理由	最初を受診させようと思ったが、子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断したため	小5	30.3%	52.8%	67.3%
		中2	25.0%	46.2%	44.8%
	多忙で医療機関に連れて行く時間がなかったため	小5	18.2%	13.9%	19.8%
		中2	25.0%	28.2%	23.3%
	公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため	小5	24.2%	13.9%	4.0%
		中2	14.3%	5.1%	3.4%
	子ども本人が受診しなかったため	小5	9.1%	5.6%	2.0%
		中2	14.3%	7.7%	17.2%

(4)① まとめ

- ・受診させた方が良いと考えながら受診させなかった経験は、生活が困難になるほど増えている。
- ・受診させた方が良いと考えながら受診させなかった理由は、生活困難度に関係なく「最初を受診させようと思ったが、子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断したため」と「多忙で医療機関に連れて行く時間がなかったため」が多い。
- ◆過去1年間に子どもを医療機関に受診させなかった経験は、生活困難度ではなく保護者の判断や保護者の時間的な都合による場合が多い。

(4) 子どもの健康に関する課題

仕事と子育ての両立ができるような親の働き方の見直し

(5) 子どもの自己肯定感

① 「平日の放課後に一緒に過ごす人」と「子どもの自己肯定感」のクロス集計結果

回答区分		学年	<子ども>問38 思いや気持ちについて/自分のことが好きだ			
			とても思う	思う	あまり 思わない	思わない
<子ども> 問9 平日の放課後に誰 と過ごすことが一番多 いか	家族・放課後児童会・その他の大人・友達と過ごす	小5	42.9%	32.9%	13.2%	9.0%
	一人である		30.7%	28.9%	22.8%	15.8%
	家族・放課後児童会・その他の大人・友達と過ごす	中2	22.0%	38.9%	26.3%	12.1%
	一人である		16.7%	16.7%	36.5%	28.1%

② 「平日の放課後一人である子ども」と「子どもの将来の夢」のクロス集計結果

回答区分		学年	<子ども>問5 将来の夢の有無	
			ある	ない
<子ども> 問9 平日の放課後に誰 と過ごすことが一番多 いか	家族・放課後児童会・その他の大人・友達と過ごす	小5	83.5%	15.5%
	一人である		76.3%	23.7%
	家族・放課後児童会・その他の大人・友達と過ごす	中2	63.6%	36.0%
	一人である		58.3%	41.7%

(5)①② まとめ

平日の放課後を「一人で過ごしている」子どもより「家族や友達と過ごしたり放課後児童会や塾、習いごと等で大人と関わっている」子どもの方が夢があり、自己肯定感も高い傾向にある。

③ 「自分のことが好きだと思うこと」と「子どもの成績の主観的な評価」のクロス集計結果

回答区分		学年	<子ども> 問30 クラスの中での成績評価	
			上の方 やや上の方 真ん中のあたり	やや下の方 下の方
<子ども> 問38 思いや気持ちについて／自分のことが好きだ	とても思う	小5	78.6%	14.2%
	思う		69.3%	21.2%
	あまり思わない		52.5%	35.0%
	思わない		43.4%	41.2%
	とても思う	中2	64.6%	28.2%
	思う		63.6%	28.5%
	あまり思わない		49.7%	41.1%
	思わない		35.9%	54.4%

④ 「自分のことが好きだと思うこと」と生活困難度

回答区分		学年	生活困難層		非生活困難層
			生活困窮層	周辺層	
<子ども> 問38 思いや気持ちについて／自分のことが好きだ	とても思う	小5	30.9%	29.2%	46.2%
	思う		35.8%	36.8%	33.4%
	あまり思わない		17.3%	20.8%	11.6%
	思わない		14.8%	12.5%	7.2%
	とても思う	中2	18.8%	25.0%	21.9%
	思う		28.1%	30.8%	40.5%
	あまり思わない		31.3%	26.3%	26.5%
	思わない		21.9%	16.7%	10.4%

(5)③④ まとめ

- ・自己肯定感の高い子どもほど、成績の主観的な評価が高い。
- ・自己肯定感が低い子どもの割合は、生活が困難になるほど増えている。

(5) 子どもの自己肯定感に関する課題

子どもの自己肯定感の醸成につながる大人の関わり方
学力向上のため、学校や家庭での自己肯定感を高める取組

(6) 子育て支援策

① 市が実施している子どもに関する施策を知らない人の割合

回答区分	学年	生活困難層		非生活困難層	
		ひとり親世帯	ふたり親世帯		
<保護者> 問20-2・44・45 支援制度等について利用や受給をしたことが無い理由/制度について全く知らなかった	小5	地域子育て支援センター(くれくれ・ば, ひろひろ・ば)	18.1%	9.7%	7.0%
		子育て短期支援事業(ショートステイ)	44.4%	44.2%	40.2%
		ファミリー・サポート・センター	38.9%	37.0%	23.1%
		放課後児童会	13.9%	13.3%	8.3%
		学校が実施する補講	47.2%	34.5%	34.3%
		学校以外が実施する学習支援	58.3%	52.1%	44.2%
		就学援助	6.3%	6.7%	6.3%
		生活保護	9.7%	10.9%	5.9%
		母子・父子・寡婦福祉資金の貸付	27.8%	19.4%	10.2%
	児童扶養手当	4.2%	18.8%	10.8%	
	中2	地域子育て支援センター(くれくれ・ば, ひろひろ・ば)	25.9%	23.6%	10.9%
		子育て短期支援事業(ショートステイ)	49.4%	51.7%	34.1%
		ファミリー・サポート・センター	45.7%	41.6%	23.7%
		子どもが自由に時間を過ごせる公民館など	42.0%	46.1%	30.0%
		学校が実施する補講	49.4%	51.7%	35.6%
		学校以外が実施する学習支援	53.1%	61.2%	43.5%
		就学援助	0.0%	10.4%	4.4%
		生活保護	11.1%	14.0%	6.9%
母子・父子・寡婦福祉資金の貸付		29.6%	21.9%	11.3%	
児童扶養手当	3.7%	18.5%	9.1%		

② 子どもに関する施策の情報源

回答区分	学年	生活困難層		非生活困難層
		ひとり親世帯	ふたり親世帯	
<保護者>問43 子どもに関する施策の情報源/今後受け取りたい方法/「行政機関のホームページ」「SNS」	小5	76.4%	101.8%	102.4%
	中2	85.2%	107.3%	110.6%

*複数回答のため100%を超える場合あり。

(6)①② まとめ

- ・市が実施している施策の中には、必要な人への広報が行き届いていない施策がある。
- ・生活困難度に関わらず、インターネット・SNS等による広報が求められている。

③ 充実させてほしい支援

回答区分		学年	生活困難層		非生活困難層
			ひとり親世帯	ふたり親世帯	
＜保護者＞ 問48 充実させてほしい支援	子どもが安全に過ごすことができる遊び場の提供	小5	50.0%	58.2%	56.3%
		中2	33.3%	42.1%	47.3%
	読み書き計算など基礎的な学習への支援	小5	29.2%	44.2%	49.2%
		中2	30.9%	33.7%	44.3%
	保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供	小5	41.7%	32.1%	43.1%
		中2	28.4%	37.6%	46.2%
	安い家賃で住める住居の確保	小5	48.6%	29.7%	17.6%
		中2	50.6%	27.5%	19.6%
	保護者の就労に関する支援	小5	38.9%	27.9%	29.3%
		中2	23.5%	39.3%	32.5%
	子どものことや生活などについて何でも相談できる場所	小5	30.6%	32.1%	27.4%
		中2	27.2%	23.0%	31.5%

(6)③ まとめ

- ・「子どもが安全に過ごすことができる遊び場の提供」「読み書き計算など基礎的な学習への支援」「保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供」の充実を希望している保護者は、生活困難度に関わらず多い。
- ・「安い家賃で住める住居の確保」の充実を希望している保護者は、世帯構成別に見ると「ひとり親世帯」が多い。

(6) 子育て支援策に関する課題

必要な施策を必要な人に届けるための広報とニーズに合わせた施策の検討

4 今後の予定

(1) 庁内連携体制の再構築

現在、庁内に設置している「子どもの貧困対策連携会議（教育委員会・自立支援室・子育て支援課）」に幅広い分野の部課を加え、再構築し、現在実施している施策の検証や新規施策の立案などを庁内で横断的に行う。

(2) 市民からの意見の反映

- ◆調査結果をホームページ上で公表した上で、保健福祉審議会児童福祉専門分科会委員等から意見を聞き取り、施策に反映させる。
- ◆児童扶養手当の更新手続きの際に面談によるアンケート調査を実施し、ひとり親家庭の意見を聞き施策に反映させる。